

検査技師の仕事を体験 Student Seminar 開催

臨床検査技師の仕事を体験することで、医療を支えるさまざまな職業に目を向けてもらおうと、7月26日(木)、8月2日(木)、9日(木)の3回に分けて、医療職をめざす市内の中学生や近隣の高校生を対象とした「Student Seminar 臨床検査体験」が開催され、41名が参加しました。

今年で7回目を迎える同セミナー。白衣を着用した参加者たちはグループ毎に、①ダミー人形の腕を使用した採血、②人体を使用した心臓超音波検査(心エコー)、③血液検査、④顕微鏡を使用した微生物検査の4つの臨床検査を当院スタッフの指導のもと体験しました。



セミナーに参加した生徒たちからは「インストラクターの説明はとてもわかりやすく、ダミー人形の腕を使用した採血体験がいちばん楽しかった」「将来、臨床検査技師の仕事をしてみたい、医療従事者になりたいと思う」という感想が多く聞かれました。

地域連携小児夜間・休日診療について

地域の小児科の先生方と連携を取り、夜間や休日でも小児の急病の場合に、常時診療可能な体制を整えています。受診される際は、事前に代表番号(04-7092-2211)まで電話連絡をお願いいたします。

<診療>・月曜日～金曜日 午後6時～午前8時
・土曜日 正午～午前0時
・休日

便失禁に対する無料電話相談

便失禁でお悩みの方に治療法を含む適切な情報を提供する目的で、専門医や皮膚・排泄ケア認定看護師による無料電話相談を下記のとおり実施いたします。どうぞ、この機会にご相談ください。

■日時:8月22日(水)、9月12日、26日(水)
午後2時～4時
■電話番号:04-7099-1206(直通)

9/15(土) リハビリ市民講座

テーマ:ばね指の対処方法



9月15日(土) 午後1時(12時半開場)より、手の指におきる腱鞘炎の一種である「ばね指」をテーマに亀田クリニック5階リハビリセンター内研修室にて「リハビリ市民講座」

を開催いたします。

当院リハビリテーション室の山田直美作業療法士が講師となり、ばね指の対処方法についてご説明いたします。興味をお持ちの方はぜひご参加ください。(参加費無料、定員50名(当日先着順))



風しん患者が県内で増加 感染予防を

千葉県内で報告された「風しん(三日ばしか)患者」は今年6月まで3人ととどまっていたましたが、**7月は19人と急増**、昨年一年間の8人を大きく上回っていることを受けて、千葉県は感染予防を呼びかけています。

予防接種を2回受けていない方や予防接種歴が不明な方で、発熱、発疹等、風しんを疑う症状が現れた場合は、**周囲への感染を防ぐため、必ずマスク着用で来院いただき、受付窓口でその旨を伝えるようにしてください。**

また、**妊娠20週までの妊婦が風しんに感染すると、風しんウイルス感染が胎児におよび、白内障、先天性心疾患、難聴等の症状(先天性風しん症候群)が出現することがあります。**特に、妊娠を希望されている女性や抗体を保有していない妊婦と同居されている方、妊婦と接する機会の多い方で、予防接種を2回受けていない方や予防接種歴が不明な方は、かかりつけ医などに相談の上、**抗体検査や予防接種を検討しましょう。**特に1962～79年生まれの男性は子どもの頃に集団予防接種の対象外だったため免疫がない人が多いとされています。千葉県で今年感染が判明した22人のうち、約6割にあたる13人が30～50代の男性でした。

妊娠を希望する女性に対しては、要件を満たせば県の委託医療機関(亀田クリニック、亀田ファミリークリニック館山ほか)で風しん抗体検査を無料で受けることができます。詳しくは千葉県疾病対策課のホームページ「千葉県風しん抗体検査」をご確認ください。



ちょっとためになる こつしょうしょう ついたいこつせつ 骨粗鬆症と椎体骨折の話

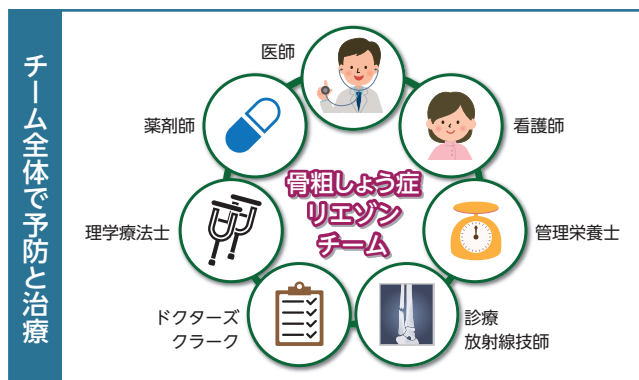
リハビリテーション室
石川修平

第11話 骨粗しょう症リエゾンサービスとは？ 当院の取り組みを通して

今回は、我々亀田メディカルセンター「骨粗しょう症リエゾンチーム」についてご紹介していきます。

まず、リエゾンという耳慣れない言葉が出てきますが、どのような意味があると思いますか？リエゾン (liaison) とは、一般的に「連絡係」、「連絡窓口」、「つなぎ」と訳されるフランス語で、骨粗しょう症の治療におけるコーディネーターの役割を意味します。

骨粗しょう症リエゾンチームでは、『骨粗しょう症の予防と改善、骨折の防止』を目的として、医師や様々な職種の医療スタッフがお互いに連携を取りながら、地域の皆さまがいち早く骨粗しょう症に対する適切な治療を受けることができるよう、また適切な治療を継続できるように働きかけています。

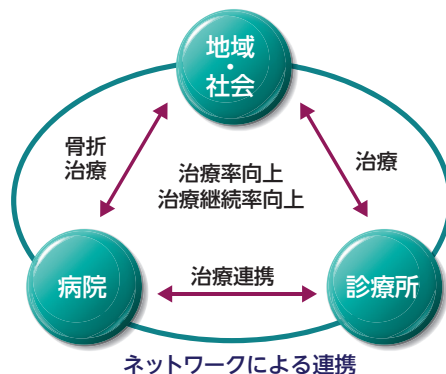


当院では、脊椎脊髄外科の久保田基夫部長をはじめ、看護師、薬剤師、管理栄養士、介護福祉士、ソーシャルワーカー、診療部事務、そして私、理学療法士の石川など、多職種で構成されています。

活動内容としては、講演や亀田ニュースなどを通して、地域の皆さまに骨粗しょう症における正しい知識を持っていただくことを行っています。それにより、骨粗しょう症のお薬を適切に継続していただくことを重要視しています。

お薬を継続することの大切さは、今回の連載の薬剤師からの記事でも記載されています。今後、連載をまとめたパンフレットも作成予定です。

骨粗しょう症の治療は、一病院だけで完結することではできません。もちろん当院だけでなく、地域の医療機関との連携が大切です。



適切なお薬を途切れさせずに継続すること、治療を継続していく中で定期的にフォローする上でも、この連携が大切です。

そこで、当院骨粗しょう症リエゾンチームでは、地域の医療機関との連携をスムーズにするため、おくすり手帳のような骨粗しょう症のための連携手帳の作成を進めています。当院でどのような治療を行ったのか、治療の経過や処方薬の情報などをこの手帳に記しておくことで、他の医療機関を受診した際にも手帳を介して治療の状況を伝えることができます。



出典：公益財団法人
骨粗鬆症財団

地域の皆さま、医療機関・施設スタッフの皆さまから、ご希望がありましたら、出張で講演等も行っていきたいと考えていますので、今後とも当院骨粗しょう症リエゾンチームの取り組みを、よろしくお願い致します。

受診相談、講演依頼、その他ご相談がございましたら、下記まで直接ご連絡ください。

亀田総合病院 診療部事務室

(脊椎脊髄外科担当 診療アシスタント 伊丹香代子)

TEL: 04-7092-2211, E-mail: spine@kameda.jp

医師紹介 鈴木 隆太 医師

- ①担当科目
- ②診療における得意分野
- ③趣味
- ④ひと言



- ①総合内科
- ③ランニング
- ④話しやすい雰囲気、身体の悩みも相談しやすい医師を目指しています。よろしくお願い致します



Kameda Medical Center

亀田ホームページ <http://www.kameda.com>